

# へるす さぼーと



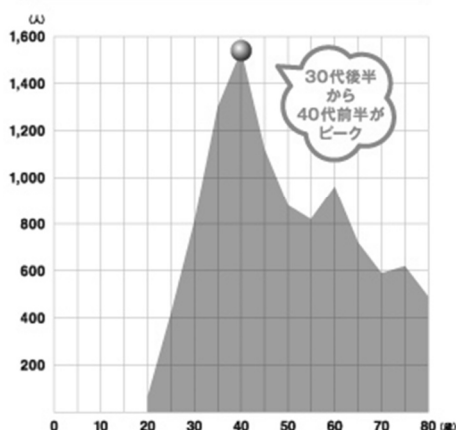
## 若い世代に増加している「乳がん」「子宮頸がん」

女性特有の体の構造から、女性には「乳がん」「子宮がん」などのがんがあります。

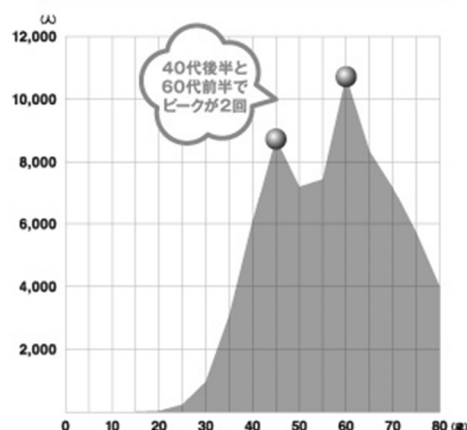
がんの多くは高齢になるほど発症のリスクが高まるため、若い女性には関係のない病気だと思われるがちですが、女性に特有のがんである乳がん・子宮頸がんは近年、若い世代に多くなっており、乳がんは30代後半から40代、子宮頸がんは20代から30代に増加しています。

中でも乳がんは日本の女性に最も多いがんです。年々増加している、国内で年間約8万人以上が新

子宮頸がんの罹患数 2012年



乳がんの罹患数 2012年



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

たに発症しています。

乳がんが増えている背景は、エストロゲンが影響しています。

初潮の時期が早い人、閉経が遅い人、出産経験がない人はエストロゲンの影響を長時間受けているため、乳がんの発症リスクが高くなります。

子宮頸がんの原因のほとんどはHPV(ヒトパピローマウイルス)というウイルスです。HPVは性交渉によって感染しますが、性交渉のある健康な女性が持っている常在ウイルスで、非常に一般的なウイルスです。HPVに感染しても必ずしもがんになるわけではなく、ほとんどの場合は本人の免疫力によって排除されます。子宮頸部の細胞にとどまった場合、子宮頸がんを発症する場合があります。

女性特有のがんには、それぞれ特有の危険因子がありますが、生活習慣にも危険因子があることは他のがんと変わりありません。喫煙はもちろんだ、動物性脂肪のとりすぎや野菜不足、多量の飲酒、運動不足などは女性のがんにおいても危険因子となります。なかでもアルコールや動物性脂肪は乳がんの発症リスクを高めることがわかっています。

### 気をつけたい症状と早期発見

早期の乳がんは自覚症状がないことが多いですが、しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液が出る、乳頭のただれなどの症状が

ある場合は、検診を待たずに医療機関を受診する必要があります。乳がんを調べる検診には「乳房X線検査(マンモグラフィ)」「乳房超音波検査」などがあります。無症状で、検診で発見された乳がんは根治可能な早期がんであることが多く、生存率の向上に結びつきます。

子宮頸がんは初期にはほとんど無症状で、不正出血や下腹部痛などの異常が現われた時にはかなり進行している場合があります。自覚症状の少ない子宮がんを早期に発見するには、定期的な検診が重要です。子宮頸部の粘膜を綿棒などで軽くこすり、採取した細胞を顕微鏡で調べる「細胞診」検査があります。初期の段階でがんを発見できれば、比較的治療しやすく予後がよいと言われています。

### がん検診を受けましょう

町では年に一度がん検診を受けることができる体制をとっています。令和2年度の特定健診、がん検診の日程は、3月末の戸別配布文書をご参照下さい。